

経済・金融 フラッシュ

5月米鋳工業生産・稼働率は予想外の低下～景気回復にやや減速も

経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

(全体の概要)

1、鋳工業生産指数・設備稼働率とも前月から下落

FRB 発表の5月鋳工業生産指数は前月比▲0.1%(4月同1.0%)と市場予想(同0.1%)を下回り、2ヵ月ぶりの下落となった。前年比では4.7%の上昇となる。なお、前4月指数(97.4)の水準は、2008年7月(97.9)以来ほぼ4年ぶりの高水準を回復していた。また、5月水準は同指数のピークとなったリセッション入り時の2007年12月(100.7)を3.4%下回る(図表1)。

一方、設備稼働率は79.0%と前月・市場予想(ともに79.2%)を0.2%ポイント下回った。前月は2008年4月(79.5%)以来となる4年ぶりの高水準を回復していた。前年比では2.7%ポイントの上昇となる。ただ、リセッション時のボトム(2009年6月66.8%)からは大きく回復しており、長期的な平均稼働率水準(1972～2011年の平均、80.3%)やリセッション入り時の水準(2007年12月80.6%)にあと一息となっている。

5月は鋳工業生産・稼働率ともこれまでの回復から一服となった。この3ヵ月で2度目の低下であり、雇用統計等、最近発表された多くの経済指標と同様、景気がやや鈍化傾向にあることを示唆するものとなっている。

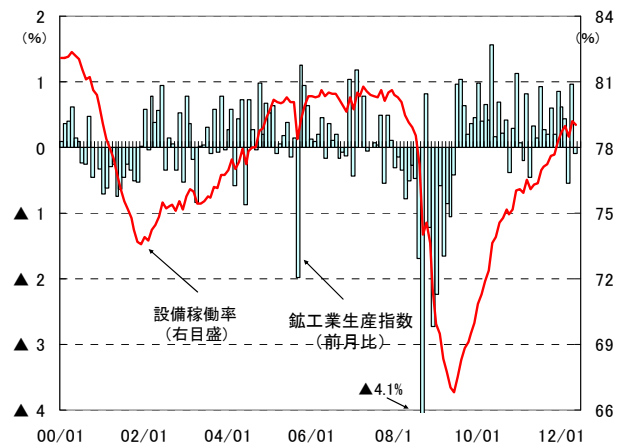
(業種別の動向)

2、5月鋳工業生産は、製造業が低下も公益部門は続伸

鋳工業生産指数を部門別に見ると、製造業が前月比▲0.4%、建設は同▲1.2%と低下した半面、鋳業が同0.9%、公益(電力・ガス)が同0.8%と上昇した。公益部門では、前月の急伸(同5.3%)に続き5月も続伸したが、変動の大きい天然ガスは前月に急伸(同23.8%)した後、5月は同▲8.7%と下落に転じている。

製造業の低下には、これまで製造業の伸びを押し上げてきた自動車の低下等が影響した。業種

(図表1) 鋳工業生産と稼働率の推移(月別)

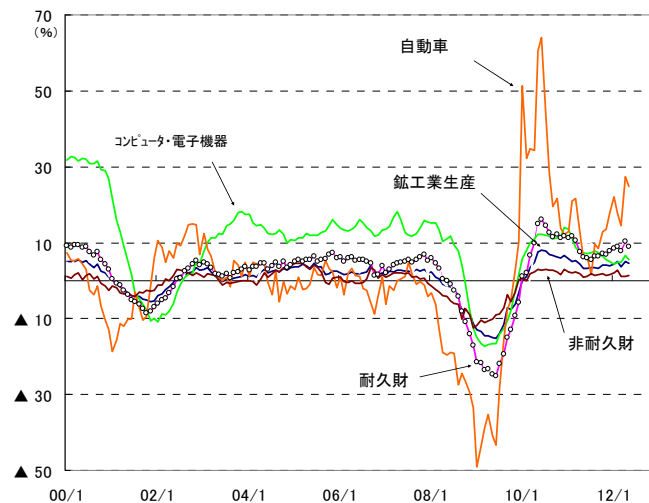


(資料) FRB

別に内訳を見ると、自動車(前月比▲1.5%)、機械(同▲0.5%)、化学(同▲0.4%)、食品(同▲0.3%)等、全般的に低下するものが多く、半面、上昇は、石油・石炭製品等(同0.9%)、電気器具(同0.3%)、印刷(同0.3%)等となる。なお、ハイテク産業は前月比0.5%と3ヵ月連続のプラスを維持、エネルギー産業も同1.0%と連月の上昇となった。

また、製造業の前年比は5.2%と上昇したが、業種別では自動車が群を抜く伸び(同24.9%)を見せており、機械(同9.0%)、金属加工(同7.3%)等も比較的高い伸びを見せている。

(図表2) 鉱工業生産:主要業種別の推移



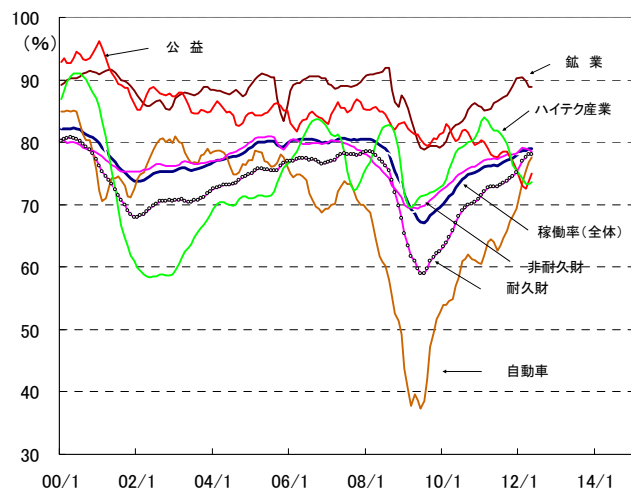
(資料) FRB、注: 前年比、%

3、業種別の設備稼働率では、自動車が低下も製造業の稼働率を上回る

製造業の5月設備稼働率は77.6%と前月(78.0%)から低下したものの、ボトムとなった2009年6月(63.8%)からは13.8%ポイント上昇し、長期的な平均値(78.8%)まであと1.2%ポイントと接近している。なお、鉱業では89.2%と長期的な平均値(87.3%)を上回るが、公益部門は76.5%と長期的な平均値(86.3%)を大きく下回る。

製造業を業種別に見ると、機械(85.2%)、石油・石炭製品(84.4%)、電気機器(83.6%)、等が高い。ハイテク産業は74.0%と前月から横ばい、自動車産業は77.8%と前月(79.0%)から低下したが、製造業の稼働率は連月で上回った。なお、リセッション時の落ち込みが大きかった耐久財であるが、5月は78.0%と非耐久財(78.4%)と遜色のない水準にまで回復している(図表3)。

(図表3) 設備稼働率:主要業種別の推移



(資料) FRB、注: 3ヵ月移動平均、%

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。